

11. 上総掘りの民俗 民族技術論の課題

大島暁雄著
未来社（1986）
四六判 p.319
定価 3,400円



目次

第一章 民俗技術論の課題

第一節 民具研究の現状と課題

はじめに、(1) 民具研究の現状、(2) 民具の概念をめぐる諸問題、(3) 研究概念としての民具、(4) 民具の分類

第二節 民俗技術論の課題

(1) 民具の性質、(2) 民具の性質、(2) 民俗技術論の提案

第二章 上総掘りの民族学

第一節 上総掘りの成立と展開

はじめに、(1) これまでの研究、(2) 上総掘りの成立過程、(3) 上総掘り成立の背景、(4) 上総掘りの展開－農業用水を中心として－、終わりに

第二節 上総掘りの技術と伝承－千葉県君津地方を中心に－

はじめに、(1) 技術の継承、(2) 上総掘りの技術と変遷、(3) 掘削中の事故と井戸の手入れ、(4) 上総掘りの用具、(5) 掘賃と職人の地位、(6) 上総掘りの儀礼と禁忌、おわりに

第三節 上総掘りの伝播とその技術

はじめに、(1) 職人の足跡、(2) 関東地方の上総掘り、(3) 技術の伝播、(4) 近代産業と上総掘り、(5) 探鉱技術としての上総掘り、(6) 上総掘り技術の展開、おわりに－上総掘りの終焉－

第三章 出稼ぎの技術とその周辺

第一節 上総唐箕－伝播と展開－

はじめに、(1) 唐箕の形態と伝播、(2) 上総唐箕、(3) 出稼ぎの背景、おわりに

第二節 民俗技術における系譜意識とその背景

はじめに、(1) 上総地方の草屋根葺き、(2) 屋根葺き職人における流派と技術、おわりに

結論－まとめと今後の課題

あとがき

紹介コメント

著者は文化庁の文化財調査官で、ここでは庶民の生活を支える技術を常民から職人まで視野を広げ、民俗技術としての考え方に立脚して民俗技術の実態と特質について上総掘り

地下水ブックガイド

の技術を例にして、その技術の実態とその成立背景を明らかにし、民俗技術が科学技術へと移行する過程を解明している。また、技術の伝播過程についてもその技術継承の形態を検討し、徒弟制度が重要な要素となるほかに、集団的に伝授や修得がなされる特質などを明らかにされている。民俗文化について考えさせられる1冊である。